

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽実技Ⅰ」と同様、講師のピアノ演奏や学校の音楽教師の経験、教科書教材の作編曲、読譜指導等の多様な実務経験を生かして、クラス授業（45分）と学びの進度に応じたピアノの個人レッスン（45分）とを交互に行います。春期に学んだ《絶体音》（鍵盤・五線譜・音名（CDEFGAB、ハニホヘトイロ）と、《相對音》（音階・ハンドサイン・階名（ドレミファソラシ））を意識するワークを行いながら、短音階、IⅣVⅦの長三和音・属七和音、ⅡⅢⅥⅦの短三和音・減三和音、全終止・半終止、「冬げしき」の歌詞弾き歌いや旋律／バスハンドサイン、リズム伴奏やオルタネーティング・ベース、分散和音・アルペジオ、右手重音・フィラー、記譜ワークなどを行います。個人レッスンでは「音楽実技Ⅰ」のピアノの基礎的な力をさらに伸ばし、弾き歌いの方法を中心に、保育・教育現場で役立つ音楽実技の能力を高めます。

授業計画

第1回	(クラス授業) 自然短音階・和声短音階	(個人レッスン) 同上
第2回	(クラス授業) 短音階のスケールスケール(音名・階名・調名)	(個人レッスン) 同上
第3回	(クラス授業) I・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶの和音	(個人レッスン) 同上
第4回	(クラス授業) I・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶのコードネーム	(個人レッスン) 同上
第5回	(クラス授業) ⅡⅢⅥⅦの和音とコードネーム	(個人レッスン) 同上
第6回	(クラス授業) 全終止・半終止・曲の構成(楽譜の読み取り)	(個人レッスン) 同上
第7回	中間実技試験(ピアノ曲+弾き歌い曲)	
第8回	(クラス授業) 「冬げしき」の歌詞弾き歌い	(個人レッスン) 同上
第9回	(クラス授業) 「冬げしき」の階名唱・旋律	(個人レッスン) 同上
第10回	(クラス授業) 「冬げしき」のハンドサイン	(個人レッスン) 同上
第11回	(クラス授業) 「冬げしき」の伴奏・単音伴奏	(個人レッスン) 同上
第12回	(クラス授業) 「冬げしき」の伴奏・和音基本形	(個人レッスン) 同上
第13回	(クラス授業) 「冬げしき」の伴奏・和音転回形	(個人レッスン) 同上
第14回	(クラス授業) 総合技能試験「冬げしき」	(個人レッスン) 同上
第15回	期末実技試験①(ピアノ曲+弾き歌い曲)	
第16回	期末実技試験②(①を通過しなかった人)	

到達目標

- (1) ピアノ鍵盤と楽譜との対応を理解し、指導を受けながら、できるだけ自分の力で楽譜を読み演奏できる。
- (2) 音名・階名の理解を深め、コードネームと和音記号について理解し、演奏することができる。
- (3) 単音伴奏をもとにオルタネーティング・ベース、右手重音、フィラーのある伴奏を演奏することができる。
- (4) リズム、音階の記譜を基に、大譜表に様々な伴奏譜を記譜することができる。

履修上の注意

- ・小学校教員免許取得のための選択必修科目(10単位必要)です。
- ・2年で履修する「子どもの歌と表現」につながる基礎的な内容を学びます。
- ・教育や保育の現場で求められる音楽の基礎的な力を身に付けます。

予習・復習

- (1) 音楽に触れている時間の長さや技能の定着とは比例します。練習時間を確保する意志の強さが必要です。
- (2) 音楽は耳からの記憶がスタートです。まずYouTubeなどで聴き曲をよく知ってから練習してください。
- (3) スポーツや語学と同じように、教わったことはすぐに反芻(はんすう)して再現することが効果的です。
- (4) 練習せずにレッスンを受けても無駄です。少なくとも1日あたり30分は練習することが望ましい。

評価方法

実技試験(50%)、練習状況および授業態度(20%)、基礎技能(15%)、音楽理論の提出物(10%)、学習記録(5%)を総合して評価します。

テキスト

クラス授業は、「音楽実技Ⅰ」に引き続き『ポケットいっぱいのおうた』をテキストとするほか、プリントを配布、個人レッスンは同じく継続して『大人のためのピアノ教本』(ドレミ楽譜)を使用し、進度に応じ授業内で教材を決定する。